

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20592

研究課題名（和文）日本における中国系ニューカマー高度労働者の雇用格差およびキャリア意識の男女比較

研究課題名（英文）Gender Comparison of Employment Gap and Career Awareness among Chinese High-skilled Workers in Japan

研究代表者

張 潔 (Zhang, Jie)

早稲田大学・国際大学院（アジア太平洋研究センター）・その他（招聘研究員）

研究者番号：00804204

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国系労働者が日本で働く際の雇用状況やキャリア形成について調査・分析することを目的とし、特に中国系の高度労働者に焦点を当て、その雇用格差やキャリア意識における男女の比較を行った。この研究では、質的調査を行い、中国人の調査対象を特定したインタビュー内容を分析し、日本企業における外国人労働者の雇用格差、キャリア意識などさまざまな要素を検討した。本研究では、男女の雇用格差やキャリア意識の比較において、社会的・文化的要素がどのように関与しているかを検討した。例えば、言語の違い、職場環境、差別や偏見といった要素が考慮された。また、文化的背景や社会的制約などが影響を与える可能性も検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本における中国系高度労働者の雇用状況やキャリア形成に関する新たな知見を提供し、特にジェンダー比較と社会文化的要因の影響を明らかにする点である。この研究は、男女間のキャリア意識の違いや雇用格差を明確にすることで、職場におけるジェンダー平等の推進に寄与する。また、労働市場の多様性促進やジェンダー平等の推進、異文化理解の深化に貢献し、具体的な政策提言や企業戦略の支援に役立つことができる。これにより、外国人労働者の受け入れと活用を促進し、職場の多様性と競争力を高めることが期待される。したがって、本研究は学術的および社会的に実践的な貢献を果たすものである。

研究成果の概要（英文）：This research aims to investigate and analyze the employment gap and career awareness among Chinese newcomers in Japan, with a particular focus on highly skilled Chinese laborers. The study compared employment disparities and career awareness between men and women. Through qualitative research, the study analyzed interview content from identified Chinese participants, examining various factors such as employment disparities and career awareness among foreign workers in Japanese companies. The comparison of career awareness investigated whether there are differences between male and female Chinese newcomer skilled workers. The research also explored how social and cultural factors influence employment disparities and career awareness, considering elements such as language differences, workplace environment, discrimination, and prejudice. Additionally, the potential impacts of cultural background and social constraints are examined.

研究分野：移民社会学

キーワード：外国人労働者 雇用格差 キャリア意識 ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本における中国系ニューカマー高度労働者の男女間の雇用格差およびキャリア意識の差を理論的、実証的に明らかにすることを目的とする。この研究の背景としては、経済のグローバル化に伴い、経営・研究・技術分野において高度な技術・知識を有する人材の獲得競争が世界的規模で激化している。高度外国人労働者の受け入れ促進は、もはや一私企業の隆盛に係る問題にとどまらず、技術革新を通じた一国の産業・経済の活性化および持続的成長のための重要戦略として認識されている。日本も先進諸国間の人材獲得競争に巻き込まれており（小井土 2017）、自国の少子高齢化と相まって、高度外国人労働者の受け入れ促進が喫緊の課題となっている。なお、先進諸国が経験している近年の生産変動の大きさを考慮すると、景気変動に合わせて外国人労働者の受け入れを調整することが極めて重要な政策課題となっている（上林 2017）。日本でも、経済の活性化と競争力強化のために、優秀な人材を受け入れて定着させる必要があり、そのためには就労環境と生活環境の整備に関する政策の検討が必要となる。さらに、実際の雇用者となる日本企業における高度外国人労働者の雇用の実態および雇用方針の方向性についても明らかにする必要がある。

このような背景から、本研究は、高度外国人労働者の流入が急速に拡大する日本において、高度外国人労働者の中でも最も多い中国人を対象とし、彼らの雇用の現状およびキャリア意識を量的および質的アプローチを組み合わせたミックス調査方法を用いて総合的に把握し、移住生活中の適応レベルに影響する雇用格差やキャリア意識の決定要因を解明する。具体的には、次の2つの学術的な「問い」を明らかにする。

### (1) 「高度外国人労働者をどう定義すべきか？」

近年、高度外国人労働者は人材の国際移動における重要な概念の1つとして多数の労働市場研究に使われている。しかし、既存の定義にはいくつかの欠点があることを見逃してはならない。まず、OECDでは、高度外国人労働者、つまり high-skilled foreign workers (HFWs) を、「高等教育プログラムを修了し、自国以外で暮らしている成人」(OECD 2009)と定義しているが、近年の急速な高学歴化を受け、高等教育を修了しているが働いていない外国人移住者も少なくない（専業主婦など）。つまり、OECDの「HFWs」の定義を満たしているが実質的には高度労働者ではない集団が存在する。一方、日本では「働いている主体としての個人」により焦点を当て、日本人労働者の対照として「高度外国人労働者」という表現が使われている（Lee 2015）。これは、日本の「永住」ビザを申請する外国人労働者が増加し、彼らが高度専門技術活動の在留資格を持たなくても実際には「高度人材」として働き、日本で定住化する傾向も強く表している。しかしながら、これは、在留資格や学歴など客観的な基準に基づいたものではない。また、彼らが主観的に自分を「高度外国人労働者」として認識しているかどうかは明らかにされていない。

これは、国際移動研究において重要な概念である「高度外国人労働者」の定義を再設定する必要があることを示している。そこで、本研究は、日本を国際労働市場の一例としてニューカマー労働者の移住現状を検討し、在留資格と学歴だけではなく、総合的な移住社会の視点から、また、客観と主観の両側面から「高度外国人労働者」の基準を再検討する。

### (2) 「なぜ彼らは移住先の生活に満足しなくても定住化する傾向が強いのか？」

日本における外国人労働者に関する研究は、単純労働に従事する研修生などを主な対象とし、彼らの健康状態や生活面での困難などの現状をさまざまな分野から明らかにしたものが多く。また、近年増加しつつある高度外国人労働者については、在留資格の現状把握のための報告書や雇用側が求める人材像などに焦点を当てた報告が多数みられる（井口 2011）。しかしながら、彼らの適応状況および移住生活意識を国籍別に検討した報告は極めて少ない。

申請者は2010～2012年に行った日本における外国人移住者に関する研究において、北アメリカやヨーロッパからの移住者と比べてアジア域内からの移住者の生活満足度は低く、なかでも中国人の生活満足度は他のアジア国からの移住者よりも低いが、彼らの定住化傾向がより強いことを明らかにした（Zhang 2013）。また、中国人移住者における生活満足度の決定要因を検討した結果、女性が男性より満足度が低く、独身者（離婚を含む）より既婚者のほうが満足度が低いことを明らかにした。また、学歴が高いほど生活満足度が低いことも明らかにした。すなわち、OECDの学歴に基づいて定義される「高度外国人労働者」の移住生活満足度が低いことを示した。

ここで生じる疑問は、なぜ移住生活に満足しなくても定住化傾向が強いかということである。また、まだジェンダー格差が顕著である日本社会において、高度外国人労働者の雇用レベル（職種、賃金など）、仕事満足度、および日本企業に対する印象と要望は、男女比較の視点からまだ明らかにされていない。少子高齢化が深刻化し、高度外国人労働者を積極的に受け入れている日本社会の現状を考えると、中国系ニューカマー高度労働者を典型的なケースとして、彼らの雇用

状況および社会適応の全体像を把握するだけでなく、男女比較の視点から高度外国人労働者の雇用格差およびキャリア意識を解明することは喫緊の課題と考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本における中国系ニューカマー高度労働者の男女間の雇用格差およびキャリア意識の差を理論的、実証的に明らかにすることを目的とする。特に、以下の2つの課題に応える。

(a)高度外国人労働者の再定義（OECDなどによる既存の定義の検討）

(b)男女比較に基づいた高度外国人労働者の雇用格差の実態、キャリア意識、およびそれらの決定要因の解明

(a)については、国際移動研究における重要な概念である「高度外国人労働者」を、国際労働市場の現状に即して再定義する。(b)については、今までのジェンダー社会研究とは異なり、女性移住者に注目するのではなく、男女比較の視点から高度外国人労働者の雇用格差の現状、キャリア意識、およびそれらの決定要因を検討し、多文化共生社会に存在する問題の解決へとつながる知見を得る。

本研究は、国際労働市場研究と異文化適応研究を結びつけ、男女比較の視点からニューカマー高度労働者の雇用安定性および適応感を検討し、男女間の雇用格差およびキャリア意識の差を解明しようとする点である。また、量的調査と質的調査を併用し、特に質的調査では、長い期間をかけて各調査対象と信頼関係を築いた後に一対一のインタビューを行うことにより、データの信憑性を追求する。すなわち、外国人知識労働者の流入が急拡大している現代の日本労働市場の研究にミックス調査方法を適用することにより高度外国人労働者の概念を再定義し、ジェンダー学の視点より雇用格差を解明し、それをキャリア意識と統合することを図る。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず、日本企業で働いている外国人労働者（中国系ニューカマー高度労働者を含む）を対象とした量的調査データを分析し、「高度外国人労働者」の新しい定義を検討する。また、男女間の雇用格差とキャリア意識の差、およびそれらの要因を解明する。次に、中国人の調査対象を特定してインタビューを行い、彼らの主観的な「高度労働者」に関する認識を検証し、また、移住生活意識およびキャリア意識に関するデータを収集して質的に分析する。これにより、雇用格差とキャリア意識の関連を、ジェンダー格差と異文化適応の視点から総合的に分析することができる。

その達成のため、次の4つのステップを行った。 **量的調査データ分析**：「日本企業における留学生の就労に関する調査—留学生調査・企業調査 2009」のデータを利用し、中国人を含む高度外国人労働者の職種、昇進機会や賃金格差レベル、さらに仕事満足度や企業に対する印象と要望およびそれらの決定要因を男女別に検証する。 **質的調査項目の設計**：量的調査の結果を過去の研究結果と照合し、明らかにされていない問題点を確定して質的調査項目を設計する。質問項目は、基本設問（各対象の個人経歴、人的資本、社会意識など）と、雇用状況や仕事満足度に関する設問（ジェンダー差および仕事意識）の2つに大別される。 **インタビューによるデータ収集**：日本企業で働いている中国系ニューカマー50名を対象とし、日本移住後の自己定位、仕事状況およびキャリア意識を調べる。前述のように、信憑性の高い質的データを得るため、一般的なフィールドワークのグループ調査やメールインタビューとは異なり、各調査対象に対して数か月をかけて信頼関係を築いた上で一対一のインタビューを実施する。 **研究結果の明確化**：本研究は、まず、量的調査と質的調査を併用して「高度外国人労働者」の基準を検討することにより、客観的視点および調査対象者の主観的な視点の両方に基づいた「高度外国人労働者」の新定義を示す。また、中国系ニューカマー高度労働者の賃金、職種、昇進機会および仕事満足度を男女別に検証し、人的資本や社会資本などの要素を含めた分析によりそれらの要因を解明する。

## 4. 研究成果

本研究の調査結果をとりまとめ、日本社会学会で口頭発表した。

[学会発表]

学会名	第93回日本社会学会大会
年度	2020
口頭発表（英）	Employment Disparity and Career Awareness: Gender Comparison of Newcomer Chinese Skilled Workers in Contemporary Japan

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Jie Zhang
2. 発表標題 Employment Disparity and Career Awareness: Gender Comparison of Newcomer Chinese Skilled Workers in Contemporary Japan
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------